第37回特別展

シデウナハテ

関西の軽井沢・日本的フィヨルド

―明治～昭和期の四條畷観光と鉄道―

四條畷市立歴史民俗資料館

第37回特別展

シデウナハテ

関西の軽井沢・日本的フィヨルド

―明治～昭和期の四條畷観光と鉄道―

戦前の四條畷駅名標　昭和13年ごろ
大阪府立四條畷高等学校提供

昭和７年４月１日、甲可村が四條畷村と改称しました。「四條畷」が、漠然とした地域をさす言葉から、自治体名となった瞬間でした。第二次世界大戦以前、四條畷は学校教育を受けた人なら誰でも知っているといっても過言ではない土地で、観光に訪れる人が多くありました。昭和初期には室池周辺が「関西の軽井沢」「日本的フィヨルド」と宣伝され、大阪近郊の静養地としての役割が企図されました。

明治28年に浪速鉄道として開通した片町線（学研都市線）は、その観光客の輸送手段として発展を遂げ、現在でも地域の移動手段として重要な役割を担っています。

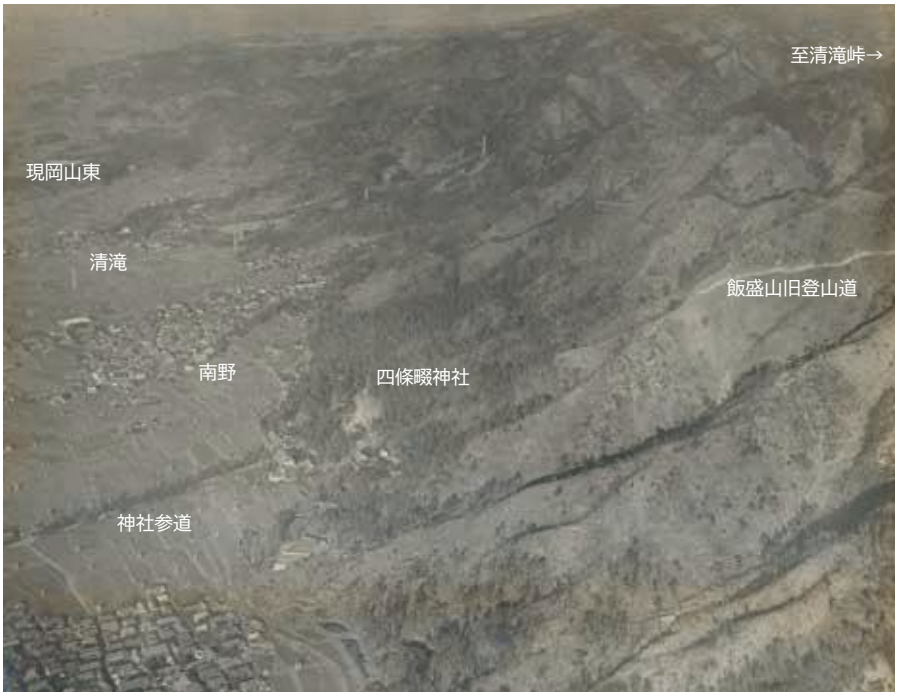
この展示では、明治時代から昭和時代を中心とした時期の四條畷について、観光と鉄道との関連を中心に考えます。

お世話になった方々（敬称略）
大阪府立四條畷高等学校、大阪府立中之島図書館、京都鉄道博物館、国立公文書館、JR 西日本四条畷駅、大東市、大東市立歴史民俗資料館、野田東班。
奥村博、佐々木拓哉、福永信雄、村松直美、森佳之、李聖子。

イラスト：佐野喜美

会　　期：令和４年10月４日（火）～12月11日（日）
発 行 日：令和４（2022）年10月４日
編集・発行：四條畷市教育委員会・四條畷市立歴史民俗資料館
会　　場：四條畷市立歴史民俗資料館
（指定管理者：株式会社地域文化財研究所）

題字ロゴデザイン：田中香里
冊子作成：實盛良彦



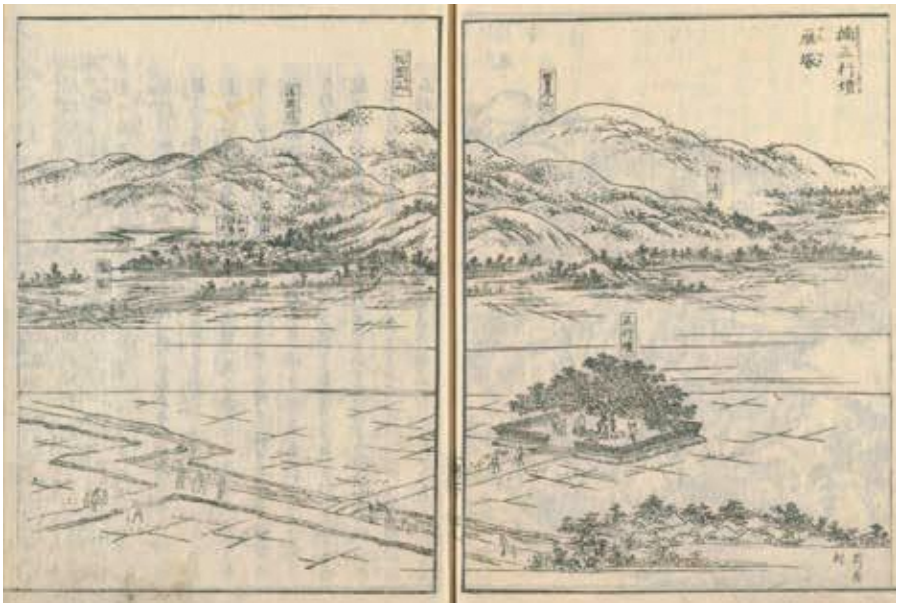
四條畷遠景写真　昭和10年代

目次

1．四條畷観光の黎明と神社創建
江戸時代の四條畷名所・・・・・・・・・・・・・・・・4
四條畷神社の創建・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
2．鉄道の開通・発達と四條畷
浪速鉄道の開通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
関西鉄道による幹線営業・・・・・・・・・・・・・・・12
四条畷駅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
忍ケ丘駅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
鉄道資料にみる昭和の鉄道・・・・・・・・・・・・・・16
3．明治～昭和期の四條畷観光
昭和９年の観光パンフレットを読む・・・・・・・・・18
飯盛山上遊園地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
交通機関パンフレットにみる四條畷・・・・・・・・・22
旅行案内書にみる四條畷・・・・・・・・・・・・・・・24
観光土産としての四條畷絵葉書・・・・・・・・・・・26
四條畷観光土産物・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
余録　市内からの観光・・・・・・・・・・・・・・・・30
4．現代の四條畷観光
現代の四條畷案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

1．四條畷観光の黎明と神社創建

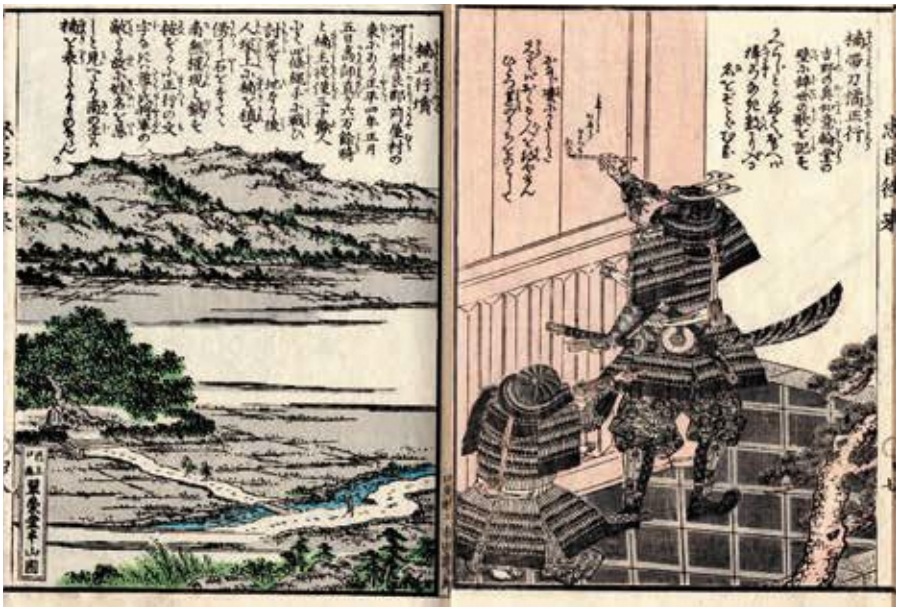
■江戸時代の四條畷名所



「楠正行墳 雁塚」『河内名所図会』巻六・享和元年(1801)　丹羽桃渓画
国立国会図書館デジタルコレクションより
展示品は個人蔵・四條畷市教育委員会寄託

江戸時代、泰平の世相を反映して、庶民の間で旅行が流行しました。基本的に庶民は移動が制限されていましたが、例外が寺院や神社への参詣で、その道中に各地の名所を見物しながら旅をしました。こうしたことを背景に、現代の旅行ガイドブックのように各地の名所を解説した書籍が刊行され、人気を博しました。

四條畷付近の名所は、『河内名所図会』に紹介されています。著者は秋里籬島で、丹羽桃渓の手による挿絵が添えられます。四條畷附近の名所としては、「忠臣楠正行墓、和田源秀墓、雁塚、國中神社、清瀧峠、清滝川、龍尾寺、御机神社、飯盛山、飯盛山城、氷室址、忍岡、津梓神社（いずれも原文ママ）」が取り上げられていました。

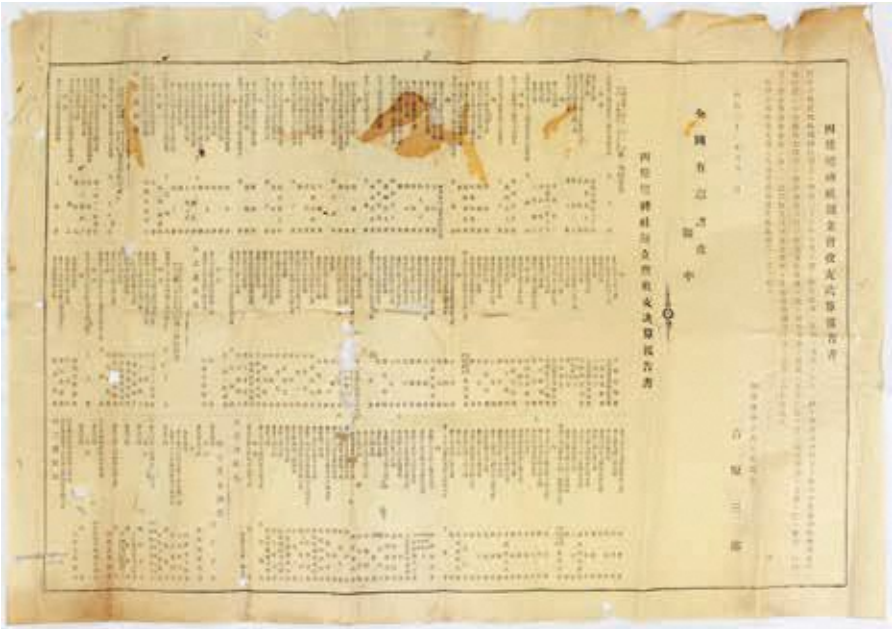


「楠帯刀橘正行」「楠正行墳」『南朝太平忠臣往来』元治元年(1864)
翠栄堂(松川)半山画　　個人蔵・四條畷市教育委員会寄託

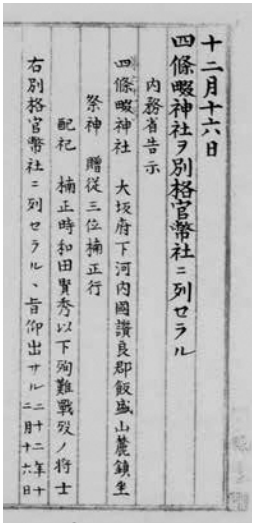
『河内名所図会』で「忠臣楠正行墓」として取り上げられた小楠公墓所は、南北朝時代、室町幕府初代将軍足利尊氏の時代にあたる正平３年（1348）正月五日に、楠正行（楠木正成の息子）を実質的総大将とする南朝方と、尊氏の家臣高師直を総大将とする北朝方が戦った四條畷の戦いで、討死した正行の供養のため建てられたものです。正行の死から約80年たった正長２年（1429）ごろに、クスノキ二本が植えられたといわれ、供養塔を包み込んで成長していきました。これが現在小楠公墓所にあるクスノキです。

小楠公墓所は近世以前に寺子屋で教科書の役割を果たした「往来物」といわれる書籍にも取り上げられました。水戸藩主徳川光圀が編さんした『大日本史』で南朝が正統とされ、江戸時代末には尊王思想が高まりをみせる中で、南朝に忠義を尽くした忠臣を紹介する教科書といえる『南朝太平忠臣往来』が出版されており、そのカラー口絵に小楠公墓所が紹介されています。「河州讃良郡苅屋村の東にあり」、「後人塚上に楠を植て傍に石をたてゝ南無権現と鐫す」とあり、当時の墓所の状況が示されています。

■四條畷神社の創建



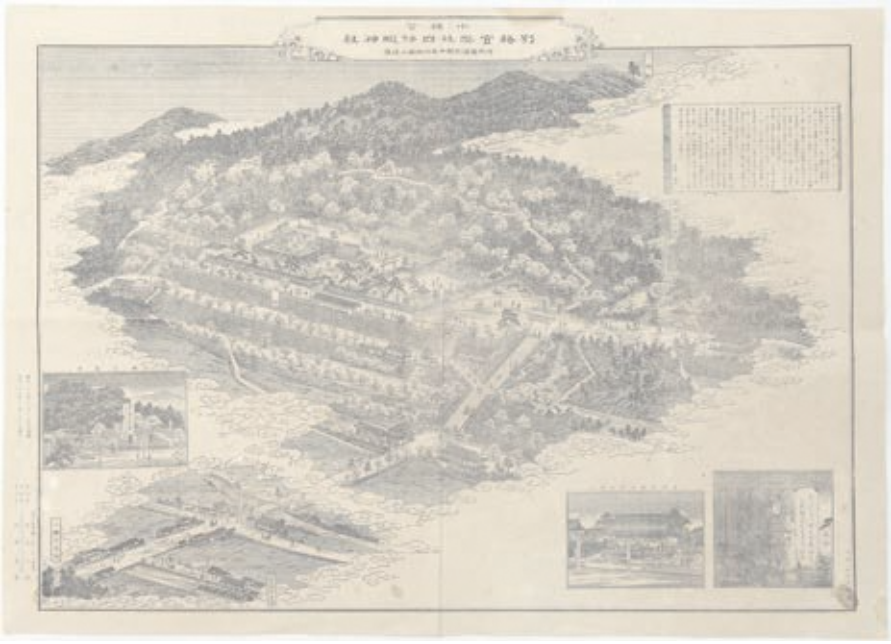
上：四條畷神社創立費収支決算報告書
明治31年８月１日付　平尾家旧蔵文書



下：四條畷神社社格決定の告示
明治22年12月16日
『公文類聚』第十三編
国立公文書館デジタルアーカイブより

明治維新が起こると、新政府は楠木正成・正行父子を忠臣として顕彰を進めます。もともと小楠公墓所は約143㎡（43坪）程しかありませんでしたが、明治７年（1874）から８年にかけて二度にわたって拡張され、約3484㎡（1054坪）に広げられました。明治８年２月13日には、大阪に来ていた大久保利通（1830-1878）により墓誌の揮毫がなされ、明治10年（1877）12月23日に建碑し、正行の命日にちなみ翌年１月５～７日に祭典がおこなわれました。

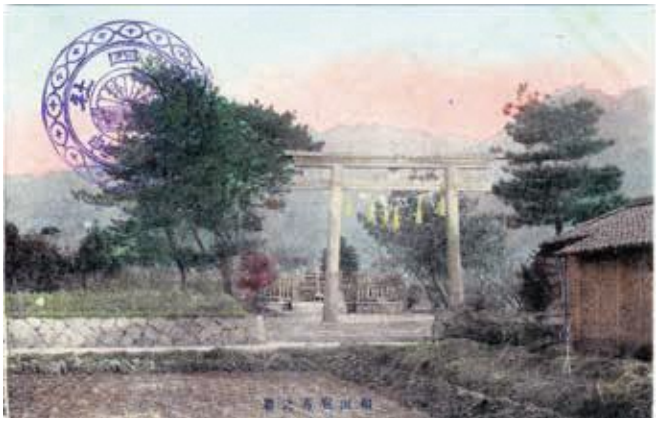
明治５年（1872）に楠木正成を祀る湊川神社が創建され、その子正行を祭神とする神社の創建についても、既に明治７年ごろから活動がおこなわれてい



「別格官幣社四條畷神社」絵図　明治29年(1896)
個人蔵・四條畷市教育委員会寄託＊

明治期の四條畷神社境内＊
明治40年代　手彩色絵葉書

ました。話が具体的に動いたのは明治21年(1888)ごろのことで、社地を当初検討されていた墓所地から飯盛山山麓に変更選定し、明治22年(1889)６月29日に神社創立が認められました。同年12月16日に社殿完成し別格官幣社（国家に功績のあった臣下が祭神の神社）に列せられ、翌23年（1890）４月５日に神霊奉納式、翌日から三日間鎮座祭をおこないました。残された創立費決算報告によれば、全国から５万円（米価を基に換算すると現代の価値で約２億円）を超える寄付が神社創立のために寄せられました。



小楠公墓所・和田賢秀墓・四條畷神社参道
手彩色絵葉書　明治30年代　色調復原
個人蔵・四條畷市教育委員会寄託＊

明治30年(1897)には楠正行の没後550年祭として４月１日から10日まで臨時大祭をおこない、４月６日には正行に従二位が追贈されました。

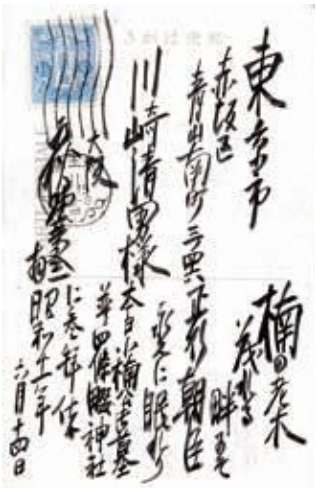
神社の参道には松並木が植えられていましたが、明治末年になると枯死が進み、大正４年（1915）10月23日に旧制府立四條畷中学校の生徒たちにより、新たに200本の松が植樹されました。校長自ら散髪した生徒の髪を肥料代わりにしたといいます。

これらの松は昭和36年（1961）の第２室戸台風で多くがなぎ倒され、平成22年（2010）10月に最後の松が枯死しました。

昭和15年（1940）の創建50年を前に神社では境内の再整備が進められ、昭和６年には社務所を建て替え、同12年には今も残る拝殿が新築されました。この際に小楠公墓所や和田賢秀墓も再整備がおこなわれ、小楠公墓所には拝所が設けられました。これはもともと神社で創建から昭和12年まで拝所として使われていたものと同一様式のものです。これらに際して新たに昭和３年に『社誌』、６年に『殉節所誌』がまとめられ、同13年には補訂版が出版されました。

別格官幣社四條畷神社殉節所誌　昭和13年(1938)＊

●【「歴史上有名なる」四條畷】



人々は「四條畷」を歌に詠み込んだ＊

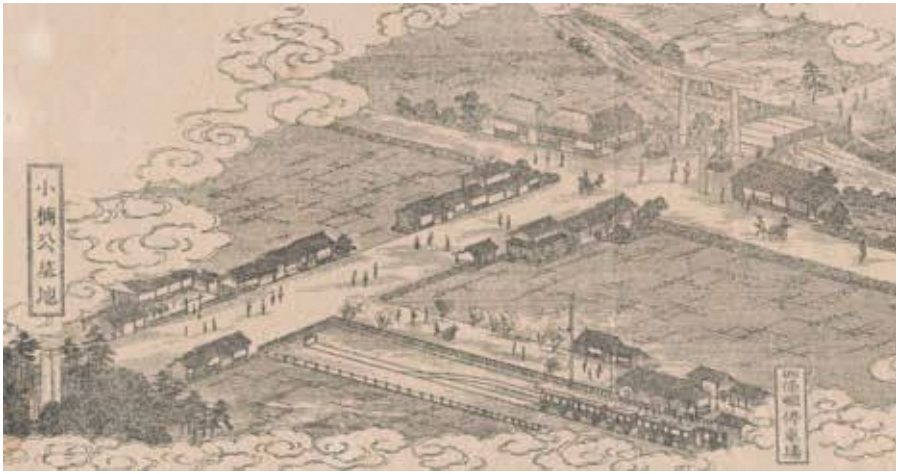
左：明治41年　山形県詠者エバタ山人さんは筆名か

右：昭和11年　宛先の川崎清男さんは当時安田銀行取締役

第二次世界大戦以前、学校教科書には四條畷の戦いのことが登場しており、四條畷は学校教育を受けた人なら誰もが知っているといっても過言ではない土地でした。四條畷から遠く離れた地の人でも、歌にその地名を詠み込んだりしていたことが､残された記録からわかります。自治体名を「四條畷」と変更する際にも、議案の改称理由に「歴史上有名なる」という表現が使われました。

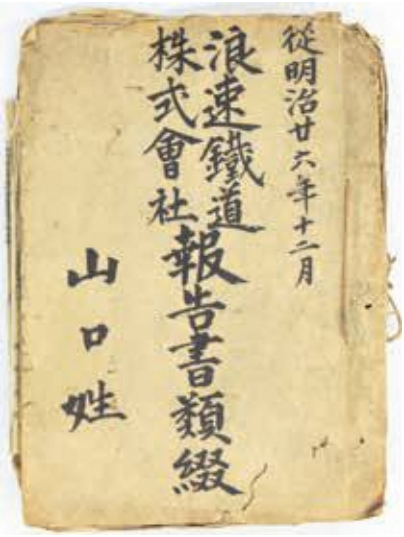
2．鉄道の開通・発達と四條畷

■浪速鉄道の開通

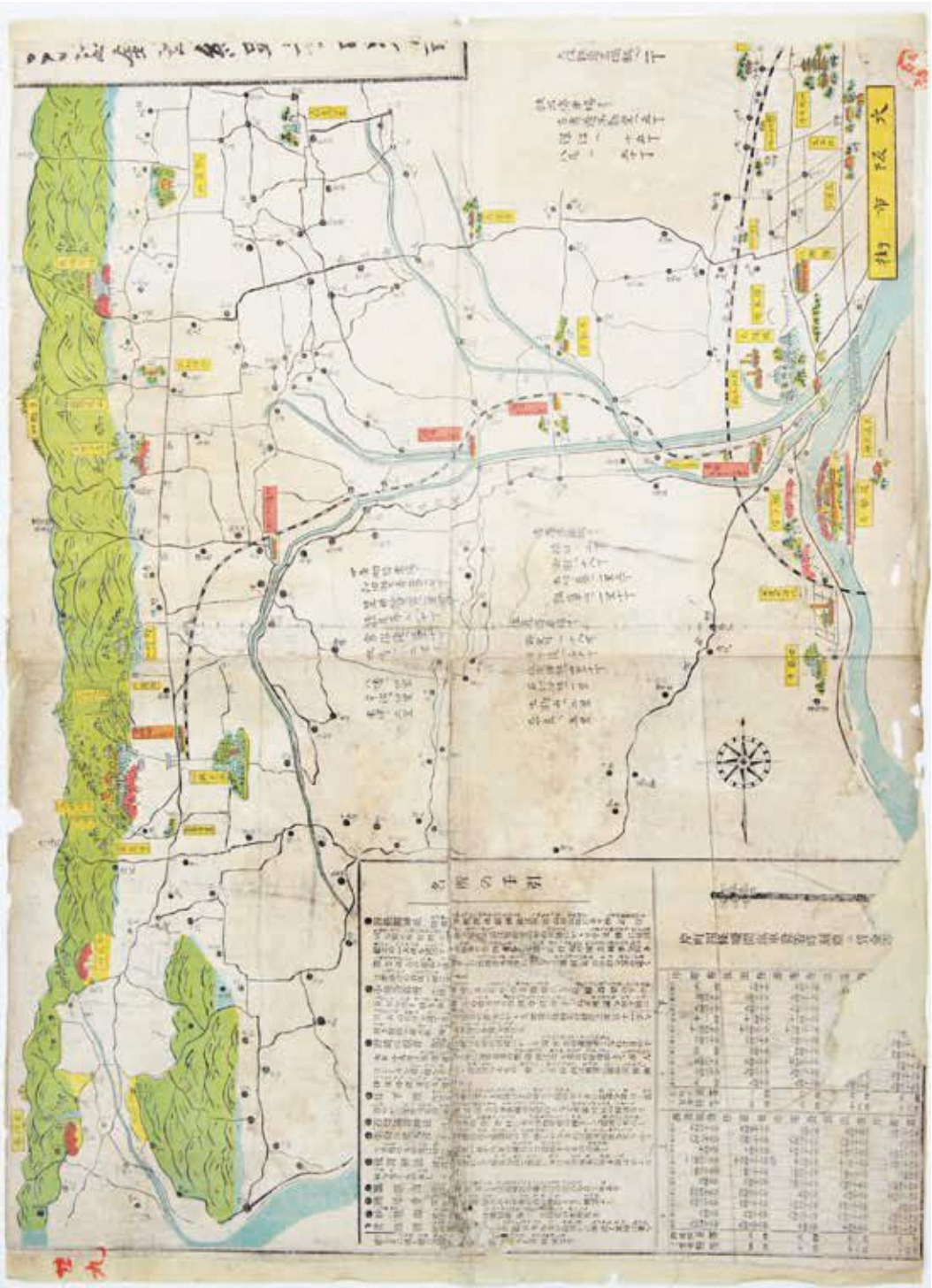


「別格官幣社四條畷神社」絵図　部分・明治29年(1896)
浪速鉄道時代の四條畷駅。線路は神社参道手前で止まっていた。
５両の客車を連結した汽車が描かれる。
個人蔵・四條畷市教育委員会寄託＊

四條畷神社が鎮座したことで、その参拝客の用に供す理由もあり、鉄道建設が計画されました。明治26年（1893）７月に浪速鉄道株式会社が設立され、四條村（現大東市）域に四條畷駅を設定、片町―四條畷間の起工式を翌27年10月５日に四條畷神社秋祭に合わせて四條畷駅予定地内で行ない、明治28年（1895）７月14日試運転、８月22日に開業しました。この鉄道は片町―四條畷間を38分、乗車賃並等８銭で結び、当初は１日10往復、明治29年12月からは１日19往復の50分間隔で運行されました。

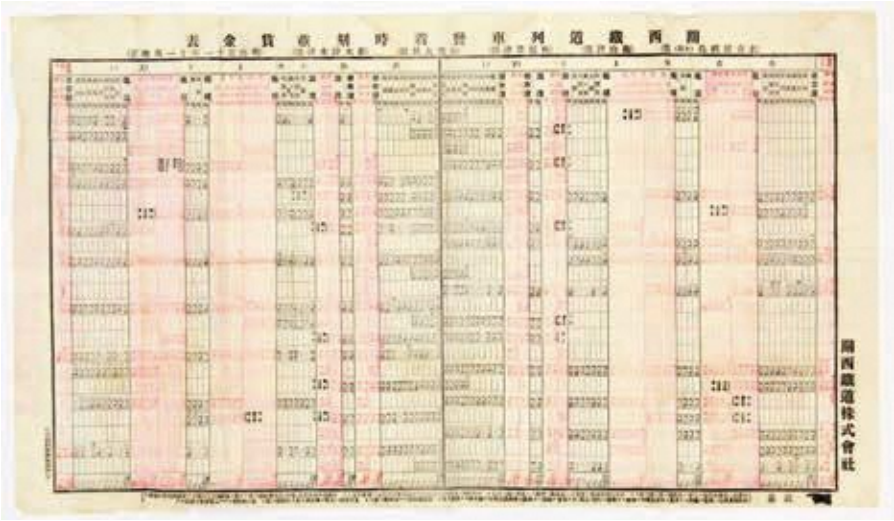


浪速鉄道・関西鉄道報告書類綴
株主が残したもの　明治26～40年



浪速鉄道線路案内略図　明治28年(1895)＊

■関西鉄道による幹線営業



関西鉄道列車発着時刻並賃金表　明治31年(1898)11月
網島―名古屋間全通時のもの　個人蔵・四條畷市教育委員会寄託＊

明治30年（1897）２月には関西鉄道が浪速鉄道を買収し、四條畷から木津までの延長線を建設、翌31年４月12日に長尾まで、９月16日に木津まで開通しました。11月18日には現在大阪府立東高校がある地下鉄長堀鶴見緑地線京橋駅北方の地に網島駅が開業し、片町駅に代えこちらを起点駅としました。同日に網島から四條畷、加茂を通り名古屋までが全通し、幹線と位置付けられました。この路線には網島発で四條畷・加茂・柘植・四日市などを経由し名古屋へと至る直通急行列車が運行され、網島―名古屋間を最短５時間17分で結びました。大和田健樹（1857-1910）が鉄道唱歌を作詞し四條畷を唄い込んだのもこのころのことです。

鉄道唱歌＊
第五集に四條畷登場

その後、明治33年（1900）６月に関西鉄道は湊町（現ＪＲ難波）―奈良間などを運行する大阪鉄道と合併してそちらを本線とします。翌年には網島―桜ノ宮間が開通しました（桜ノ宮線）。関西鉄道は東海道本線と熾烈な競争を繰り広げますが、明治40年（1907）10月１日に国有化されました。

大阪府下の片町線・桜ノ宮線関連現存明治期遺構一覧

番号	住所	名称	建材	想定年代	備考
1	枚方市長尾東町２丁目	奥大谷トンネル跡	煉瓦	明治31年	坑門イギリス積み
2	枚方市藤阪南町２丁目	（前田川トンネル）	煉瓦	明治31年	木津方面線路下部 坑門・坑内オランダ積み
3	交野市倉治７丁目	（がらと川橋梁橋台）	石積	明治31年	木津方面線路下部
4	交野市青山４丁目	（免除川支流トンネル）	煉瓦	明治31年	木津方面線路下部 坑門イギリス積み 坑内長手積み
5	交野市寺４丁目	寺架道橋橋台	石積	明治31年	京橋方面線路下部 天端のみ煉瓦小口積み
6	交野市寺１丁目	寺村架道橋橋台	石積	明治31年	京橋方面線路下部 天端のみ煉瓦小口積み
7	交野市森北１丁目	架道橋橋台 （森架道橋？）	煉瓦	明治31年	木津方面線路下部 両側完存、オランダ積み
8	寝屋川市大谷町	（打上川支流トンネル）	煉瓦	明治31年	京橋方面線路下部 オランダ積み、天井は石蓋
9	寝屋川市高倉２丁目	藤谷川橋梁橋台	煉瓦	明治31年	京橋方面線路下部 両側完存、オランダ積み
10	寝屋川市高倉１丁目	讃良川橋梁橋台	煉瓦	明治31年	京橋方面線路下部 片側残存、オランダ積み
11	四條畷市岡山東１丁目	（岡部川橋梁橋台跡）	煉瓦	明治31年	京橋方面下部、片側一部 残存、オランダ積みか
12	四條畷市中野３丁目	（山口川橋梁橋台）	煉瓦	明治31年	京橋方面線路下部
13	四條畷市楠公１丁目	（雁屋川橋梁橋台）	煉瓦	明治31年	木津方面線路下部 ４段分、イギリス積み
14	四條畷市楠公２丁目 大東市学園町	（北条川橋梁橋台）	煉瓦	明治31年	京橋方面線路下部 両市市境
15	大東市学園町	四條畷駅プラットホーム	煉瓦	明治28～ 31年	京橋方面下部 イギリス積み
16	大東市野崎１丁目	野崎駅プラットホーム	石積	明治45年	京橋方面下部
17	大東市深野５丁目	中井路橋梁橋台	煉瓦	明治28～ 31年	京橋方面線路下部 両側完存、オランダ積み
18	大東市深野５丁目	（鍋田川橋梁橋台）	煉瓦	明治28～ 31年	木津方面線路下部 オランダ積み
19	東大阪市稲田上町１丁目	徳庵駅プラットホーム	煉瓦	明治28～ 31年	京橋方面・木津方面下部 イギリス積み
20	大阪市城東区新喜多東２丁目	楠根川橋梁橋台	煉瓦	明治28～ 31年	現久宝寺・長尾方面線路下部 （複線分あり） 両側完存、オランダ積み
21	大阪市城東区蒲生２丁目	（鯰江川支流橋梁橋台） おおさか東線2016-2架道橋	煉瓦	明治31年	桜ノ宮線（大正２年廃止） 片側残存、オランダ積み
22	大阪市都島区片町２丁目	片町駅跡	—	—	駅行きポイントが残存
23	大阪市都島区中野町４丁目	水道上陸橋旧橋台跡	煉瓦	明治34年	桜ノ宮線（大正２年廃止） 片側残存、オランダ積み

※煉瓦積みの種類は角部に明らかに七五を用いるものをオランダ積みとし、角部不明のものは単にイギリス積みとした。

令和４年調査
()付き名称は調査者が付した

左上：前田川トンネル、中上：免除川支流トンネル、右上：藤谷川橋梁橋台
左下：岡部川橋梁橋台跡、中下：中井路橋梁橋台、右下：水道上陸橋旧橋台跡

■四条畷駅

四条畷駅プラットホームのようす
昭和30年(1955)　大阪府立四條畷高等学校提供

四条畷駅旧駅舎と跨線橋
昭和40年代前半　　京都鉄道博物館提供

橋上化後の四条畷駅（東口）
階段下には「旅客営業センター」があった
昭和55年(1980)　京都鉄道博物館提供

四条畷駅は浪速鉄道開業と同時の明治28年（1895）開設です。駅は大東市域（旧四條村域）にありますが、つくられた当時は、「四條畷」は自治体名ではなく四條畷神社付近一帯をさす広域地名でした。

鉄道開業時には、小楠公墓所と四條畷神社を結ぶ参道（現楠公通り）が既に完成していたため、その手前に駅が設定されました。

明治40年（1907）の国有化後、桜ノ宮への連絡線が大正２年（1913）に廃止され、これ以後全線が「片町線」と呼ばれました。

昭和７年（1932）12月１日には関西の鉄道省路線では城東線（後の大阪環状線）とともに初めて片町―四條畷間が電化され、電車が走るようになりました。その後、昭和25年（1950）に長尾まで電化され、昭和44年（1969）には片町―四条畷間の複線化が完成し、昭和53年（1978）に四条畷駅は橋上化されました。

■忍ケ丘駅

忍ケ丘駅の開設
昭和28年(1953)５月１日　個人提供

高架化途中の忍ケ丘駅　昭和53年(1978)

忍ケ丘駅に導入された自動改札機
昭和57年(1982)３月

四条畷駅は現在の大東市域で、戦前は現市域に鉄道駅はありませんでした。このため、昭和８年（1933）に岡山地区で鉄道駅設置運動がおこります。翌年には駅付近への道路改築も完成し、駅設置と合わせた「紀念碑」が作られました。しかしその年の室戸台風被害や戦争の激化などが重なり、結局設置には至りませんでした。

戦後、昭和25年（1950）に長尾までの電化が行われると再び駅設置請願運動がおこり、昭和27年（1952）４月17日承認、11月２日地鎮祭、12月22日着工、翌年４月５日竣工し、29日に開業準備、５月１日に開業式を行い、ついに市内唯一の鉄道駅、忍ケ丘駅が開設されました。

昭和54年（1979）には長尾までの複線利用が開始されるとともに、忍ケ丘駅は高架化され、同時に関西の国鉄（現JR）では初となる自動改札機が導入されました。

■鉄道資料にみる昭和の鉄道

鉄道制帽（左上：日本国有鉄道・昭和42年、
右：鉄道省・昭和初期）と改札鋏（左下）
個人蔵・四條畷市教育委員会寄託＊

切符（硬券）昭和９～49年＊
改札鋏で切符の一部を切り欠き、改札の証とした

車内に掲示されていた路線図　昭和48年ごろ＊

片町線関係資料＊　左下は四条畷―長尾間複線化記念品（昭和54年）
右下は平成８年９月８日の103系さようならイベント等で掲出された列車種別札（サボ）

片町線は、電化が昭和７年（1932）と関西の鉄道省線でも早く、同年新製の40系電車以来いわゆる72系や103系、現在の207系、321系に至るまで多くの電車が走り抜けました。電車の塗色は当初「ぶどう色」でしたが、昭和30年代以降朱色が登場し、現在ではステンレス車体に帯が入ります。

また、昭和時代以前の鉄道を示す資料として、硬券の切符と改札鋏があげられるでしょう。自動券売機や自動改札機が導入されるまで、切符は厚紙で作られていました。あらかじめ行き先やルートが印字された切符が窓口に何種類も備え付けられ、日付のみを都度専用の器械で印字していました。改札では駅員が改札鋏で切符の一部を切り欠き、改札の証としていました。

103系電車の方向幕＊
昭和54年～平成８年

3．明治～昭和期の四條畷観光

■昭和９年の観光パンフレットを読む　表紙→

（『四條畷名勝案内』個人蔵・四條畷市教育委員会寄託）

明治～昭和期の四條畷観光の中心となったのが、四條畷神社への参詣でした。神社は戦前の旅行案内書などによれば桜の名所として紹介されます。参詣の際には、近隣の史跡地や名所などを同時にまわる「観光」をおこなうのが常だったようです。残された数々の資料から、その内容をうかがい知ることができます。

和田賢秀卿の御墓

室ケ池

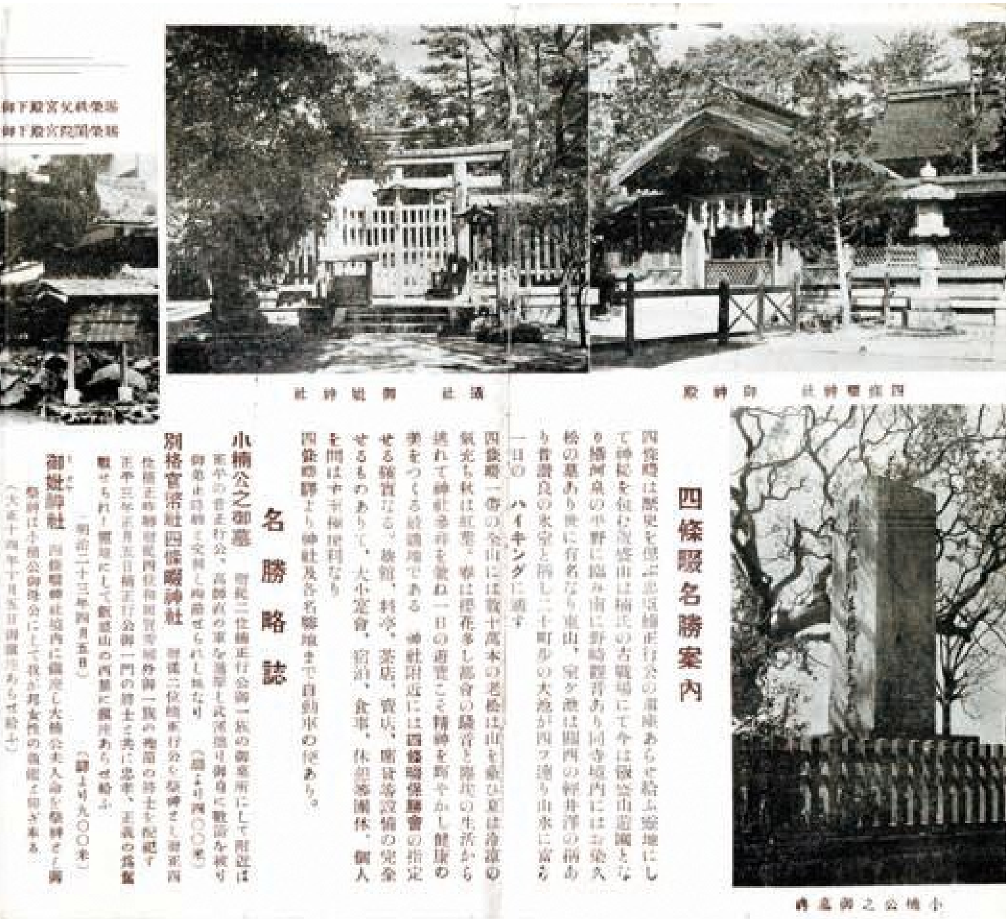
飯盛山

櫻池

野崎観音

昭和９年ごろに作成された四條畷の観光パンフレットでは、付近の「名勝」として、四條畷神社・小楠公墓所・和田賢秀墓・飯盛山・桜池・室池（室ヶ池）・野崎観音があげられており、これらは戦前の四條畷付近の観光案内で多く取り上げられる名所でした。ここでは特に飯盛山と室池付近に紙幅を割いており、「関西の軽井沢の称あり」、「山上の風光絶佳」、「一日のハイキングに適す」、「夏は冷涼の気充（み）ち秋は紅葉、春は桜花多し」、「入江入江の『フヨルド』を日本的に小さくした様な景観」、と宣伝しています。

飯盛山上にはすでに「遊園地」（次ページ参照）が開園しており、室池付近にも「遊園」「娯楽場」などの建設が計画され、山上までのバス路線の開通も見込まれていたようです。



■飯盛山上遊園地

飯盛山上遊園地全景　昭和６年
国立公文書館蔵

飯盛山上遊園地絵葉書
昭和５年ごろ

「飯盛山上遊園地」は、昭和初期に飯盛山の山上に開園が企図されたもので、森ノ宮から四條畷を通り奈良へと至る鉄道を計画していた東大阪電気鉄道株式会社により昭和５年（1930）に建設されました。遊園地といっても遊具等が設置されたわけではありませんでしたが、園内には、和室、洋室に寝具、炊事器具、浴場などを備えたマウンテンハウスや、テント村、食堂などがあり、飯盛山会館（事務所）では歌会などの催しがおこなわれたといいます。

飯盛山
マウンテンハウス
飯盛山上遊園地
絵葉書より
昭和５年ごろ

（四　版）

飯盛山遊園地マウンテンハウス完成

山の家

飯盛山頂の「マウンテンハウス」（山の家）及び「テント村」は茲々完成しました。山の神居に「ピクタリ」と合掌した近代様式の建物は各〻長期的家族的に出来上つて居ります。御都合の御都合を御待ちかね御待ちして居ります。

眺望

山上より猪苗代湖を一望に収め、夜は星、神の火の海は云ふまでもなく、緑く浜路島に点在するものも手に取る如く眺められます。

数十万本の老松全山を蔽ひ、「ホトトギス」の鳴は実となく聞かれます。

風光が多にして、大正の始公の遺業を偲びつゝ、皆様の一日一夕を慰藉を捧げて、その山上に建て、冬〻文学遺もの絶景地であります

山の設備

新装の山の家

（略）

◆テント村

◆食堂部

特徴

◆登山路

◆登山しるべ

案内所　飯盛山遊園地事務所

申込所　三二飯盛山遊園地事務所　電話第四六六番

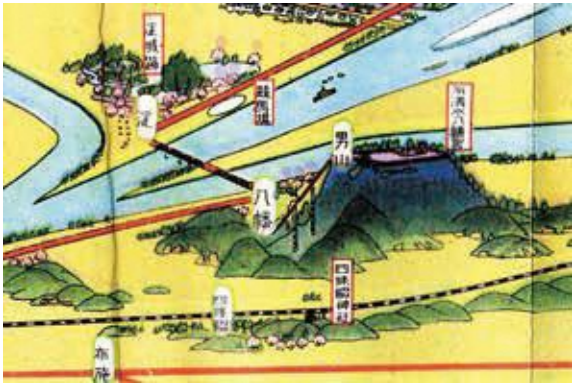
同　大阪市東区南久宝寺町二丁目　大阪白木屋内　電話第一三〇一番

同　大阪千日前　白木屋内　飯盛山遊園地事務所　電話第一四六五番

飯盛山上遊園地
チラシ
昭和６年２月
国立公文書館
デジタルアーカイブより

■交通機関パンフレットにみる四條畷

信貴生駒電車沿道遊覧名勝旧跡御案内
昭和４年（1929）12月　個人蔵・四條畷市教育委員会寄託*
四條畷神社・飯盛山・田原城跡を名所地として掲載
現京阪交野線を生駒および星田に直通させる計画だった



奈良電気沿線名所図会*
昭和３年（1928）９月　吉田初三郎画
吉田初三郎は「大正広重」といわれ、大正～昭和期に鳥瞰図絵師として活躍した

京阪電鉄・京阪バスの
案内パンフレット*
昭和７年（1932）～16年（1941）ごろ
いずれも四條畷を
名所地として案内する

情報誌『観光ニユース』＊
鉄道省大阪鉄道局発行
昭和12年（1937）10月
「南朝史跡めぐり」が特集され
四條畷を中心観光地として紹介

花見案内誌『花の旅』＊
鉄道省大阪鉄道局発行
昭和11年（1936）４月
四條畷神社を
桜の名所として紹介

四條畷は、四條畷神社を中心とした史跡観光地として発展したようで、四條畷駅を擁する鉄道省（現JR）の観光パンフレットはもちろんのこと、周辺の私鉄でも案内されていました。京阪電鉄では萱島（かやしま）駅を正式の最寄り駅（徒歩３㎞）としていたほか、京阪枚方東口駅（現枚方市駅）から大阪電気軌道（現近畿日本鉄道）生駒駅まで結ぶ計画だった信貴生駒電鉄や、奈良電鉄（現近畿日本鉄道京都線）のパンフレットにも四條畷神社が盛り込まれており、著名神社への参詣客を取り込む意図がうかがえます。

■旅行案内書にみる四條畷

『鉄道沿線遊覧地案内』（大正２年・1913）
鉄道院 発行

当時国有の鉄道を管轄していた鉄道院が発行。片町線のうち放出以東は当時同駅から網島（現地下鉄京橋駅北方）を通り桜ノ宮へ直通する「桜ノ宮線」の一部で、四條畷も同線の駅として紹介されている。この年桜ノ宮線は廃止され片町―木津間が片町線となった。

『近畿遊覧其日かへり』（大正６年・1917）
彩霞生 著、秀能井郡治 発行

近畿地方の日帰り旅行地を解説した本。６ページにわたり、かなり詳しく四條畷神社参詣と周辺の名所を案内している。紹介される名所は「小楠公の墓、楠公夫人の墓、和田賢秀の墓、龍尾寺、権現の滝、清滝」で、野崎参りの項に「飯盛山古城址」の説明もある。

『神まうで』（大正８年・1919）
鉄道院 編集、博文館 発行

鉄道院の沿線ごとに各地の神社参詣を案内した本。四條畷神社が取り上げられており、神社の概要が説明されている。四條畷駅から四條畷神社までの人力車賃が当時10銭だったことがわかる。関西線の章に組み入れられているのは関西鉄道時代の名残か。

『鉄道旅行案内』（昭和11年・1936）
鉄道省 編集、博文館 発行

鉄道院を引き継いだ鉄道省も引き続き全国の旅行案内書を刊行し続けた。その昭和11年版では、四條畷の名物として「菊水せんべい」が登場する。これは駅前で大正元年から昭和43年まで営業した菊恵堂の製造で人気を博し、今も販売が引き継がれている。

『旅程と費用概算』（昭和14年・1939）
ジャパン・ツーリスト・ビューロー 発行

ジャパン･ツーリスト･ビューロー（JTBの前身）は、明治45年（1912）に創設され､大正９年（1920）から、『旅程と費用概算』の刊行を始めた。この昭和14年版は1000ページを超える大冊で、従来の名所に加え､「飯盛山上遊園地」についても記述がある。

『近畿ハイキングと日帰り登山』（昭和16年・1941）
小谷勝 著、新興堂書店 発行

昭和10年（1935）ごろから徒歩旅行としてハイキングが流行した。この本では、一般向けルートの一つとして、四條畷で小楠公関連の史跡を見学し、四條畷神社から飯盛山へ登ったのち、野崎観音へ下山し野崎駅へ至る行程を紹介している。

■観光土産としての四條畷絵葉書

「小楠公神社」絵葉書　右は宛名面　関西鉄道運輸課発行
明治40年ごろ　個人蔵・四條畷市教育委員会寄託＊
明治41年１月入手のメモがあるが、関西鉄道は明治40年10月に国有化されている

左：「四條畷神社絵端書帖」＊　明治40年代
右：「四條畷古趾」絵葉書＊　大正７年ごろ　河内四條畷 上野書店発行
右には大正４年（1915）に植えられた参道松並木の植樹直後の写真が含まれる

明治33年（1900）の私製葉書認可を受けて、国内でも絵葉書が作られはじめました。明治37～38年ごろには絵葉書ブームが起こり、このころには四條畷でも絵葉書が土産物として販売されるようになったとみられます。初期のものでは、手彩色（７・８ページ）やアール･ヌーヴォー様式の装飾（植物モチーフや曲線の組合せが特徴）など、凝った作りが確認できます。

左：「四條畷神社絵端書」＊　昭和２年（1927）
右：「参拝記念畷絵はがき」＊　昭和５年（1930）ごろ
似たような内容だが、参道の松並木の成長度合いが異なる

左：「別格官幣社四條畷神社絵葉書」＊　昭和10年（1935）　社務所発行
右：「四條畷神社参拝記念絵葉書」＊　昭和12年（1937）
四條畷土産商同業組合発売・伊勢屋発行
右は昭和12年６月建立の小楠公像が含まれるが、９月新築の神社拝殿はまだない

明治時代～昭和初期には、まだカメラやフィルムは高価で持っている人は限られており、人々は観光の記念に名所の絵葉書を買い求めました。昭和初期になると、凝った作りのものは鳴りを潜めますが、絵葉書自体は多くの種類が作られました。絵葉書はタトウといわれる包み紙に数枚がセットになって販売されていました。

四條畷神社の拝殿が新築され、境内の再整備がおこなわれた昭和12年（1937）以降は、多色刷りのものや、「桜花」「紅葉」などといったテーマごとにセット組したものなど、さらに多彩な絵葉書が作成販売されました。

四條畷神社絵葉書　いずれも社務所発行
昭和13～20年ごろ　個人蔵・四條畷市教育委員会寄託＊
昭和12年の拝殿新築以降は、さらに多彩な絵葉書が作成された
左は白黒写真にカラー彩色し印刷された多色刷り絵葉書
右は「桜花」「紅葉」といったテーマごとに多様なセットを組んで販売されたもの

●【絵葉書の年代をみる】

絵葉書宛名面の変遷＊
左から、①明治30年代、②明治40～大正７年、③大正７～昭和８年、④昭和８～21年

明治33年（1900）10月に私製葉書が認可され、絵葉書が作られるようになりました。当初絵葉書の宛名面には通信欄がなく、通信文は絵や写真の空いている部分に書く必要がありました。明治40年４月に1/3の通信欄が許可され、大正７年（1918）４月にはそれが1/2に広がりました。昭和８年（1933）２月には「きがは便郵」と濁点が表示され、昭和21年に「郵便はがき」と左書きになりました。昭和43年７月に３～５桁の郵便番号が採用され、平成10年（1998）２月からはそれが７桁になりました。このように時期により葉書の様式が異なっており、年代を推定することができます。

■四條畷観光土産物

四條畷の土産物
左上・右上：昭和12～14年　川崎巨泉画
大阪府立中之島図書館提供
左：個人蔵・四條畷市教育委員会寄託＊

左の土鈴は昭和12年の拝殿新築などに伴い、
新たに作成されたとみられる
金色と錆色の二種があった
金色のものは菊水紋に差し色があり、花びらは白、中心部は金、流水は藍に塗られていた
高さ２寸６分（約7.9cm）

四條畷の土産物としては、絵葉書以外にも人形や土鈴などが制作販売されました。そのうち、「小楠公人形」と「四條畷神社忠孝鈴」が、郷土玩具の絵画を多数描いた画家川崎巨泉（1877-1942）の資料に記録されています。

このうち「小楠公人形」は、高さ３寸２分（約9.7cm）の土製人形で、昭和14年に巨泉が参道茶店で購入し、博多人形かと思ったら小楠公の人形だったといいます。「忠孝鈴」は昭和12年（1937）１月に頒布されたもので、巨泉自身がデザインしたものです。この年は四條畷神社境内の再整備が進んでいる時期で、それに伴い新たに作られたとみられます。

■余録　市内からの観光

旅館宿泊領収書　昭和４年（1929）
裏面に旅行記録が詳細にメモされていた
野田東班蔵

戦前期の旅行記録として、下田原の隣組で保管している伊勢講（伊勢信仰の集まり）に関するものがあります。田原の伊勢講では各人が旅費を積み立て輪番で伊勢神宮に代参していたといいます。以下はその原文です。「昭和四年四月弐拾弐日午前五時〇〇〇〇〇（個人名・村長や議員等ではない）宅集合其ヨリトラックにて生駒大軌便（大阪電気軌道。現在の近畿日本鉄道）奈良驛ヨリ氣（ママ）車便（鉄道省線。現ＪＲ）山田（現伊勢市駅）ニ着外宮内宮参拝ス后電車（三重合同電気。後三重交通神都線。現在廃線）ニテ二見ニ着濱千代館（三重県伊勢市二見町。現存）ニ投宿ス弐拾参日、二見。日出を指（ママ）み日和山（三重県鳥羽市）登山其ヨリ鳥羽驛ヨリ奈良着公園散歩后奈良新温泉ニテ入浴せり大軌便生駒驛下車、后登山自動車（生駒登山自動車。現奈良交通バス）ニテ〇〇〇〇〇（個人名・行きと同じ）宅下車、以上　　同行者氏名〇〇（以下個人名）以上九名」　※()内は補注

この当時（昭和４年・1929)、現在の近畿日本鉄道伊勢志摩方面行の路線は未開業であり、伊勢へは奈良で鉄道省の関西本線に乗り換えて汽車で向かっています。また、この記録により当時生駒駅から田原へ生駒登山自動車がすでにバスを走らせていたことが明らかになりました。付随する使用金記録によれば奈良公園では「アイスクリム」を求めたといいます。

4．現代の四條畷観光

■現代の四條畷案内

『市勢要覧』（市の案内パンフレット）のうつりかわり
昭和45年（1970）～令和２年（2020）

昭和７年（1932）に四條畷村と改称後、同22年には町制施行し、同36年に田原村と合併、同45年（1970）に市制施行し四條畷市となりました。

近年の都市化により、四條畷は大阪のベッドタウンとしての役割が大きくなりました。しかし、近郊では珍しく自然豊かな土地として、むろいけ園地や飯盛山を多くの人が訪れます。まさしく、昭和初期に期されていた飯盛山や室池を静養地や観光地として売り出す構想が、具現化しているといってもよいでしょう。昭和期までの観光状況は現代と決して無縁ではなく、わたしたちはそういった歴史の積み重ねの上に、今を生きているといえるのです。

観光やハイキングの
ガイドブック・パンフレット
大東四條畷Walker（2011年）、ちょこ旅（2018年版）、
飯盛山登山コースガイドマップ（2022年版）

2022.10.04-12.11